

会 議 記 録

下伊那南部建設事務所

件 名	第2回「遠山郷いい川づくり」推進会議	第 1 回 平成25年10月24日
年月日	平成26年1月29日(水) 18:30～20:00	
場 所	飯田市南信濃自治振興センター	
出席者	「遠山郷いい川づくり」会議：委員：14名（代理出席者1名・欠席者6名） オブザーバー：2名（欠席者3名） 事務局：下伊那南部建設事務所 田代所長、小林整備課長、村松整備第一係長、 関主任、高橋技師 (株)ゼンシン：田中 洋治(代表取締役)、宮下 利一(管理技術者)、原田 東鶴(担当技術者) 池端工業(株)：遠山 政廣(現場代理人)	
傍聴者他	1名	
配付資料	別紙添付資料	
会議の主旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推進会議を進めていくにあたり、会議の規約の確認を行い、今後の会議での取組として、河川愛護活動支援事業活動団体へ登録し、2月に河川愛護活動を行うことについて、委員及びオブザーバーの方々に了解を得た。 ・ 現地見学(研修)会の報告、中橋下流の設計についての説明、今後の予定についての説明を行い、委員及びオブザーバーの方々から意見をいただいた。 	
打合せ結果	1 推進会議の規約について〈村松係長〉 ・ 推進会議の規約について説明し、委員及びオブザーバーの方々に了解をいただいた。 会長【議長】あいさつ〈まちづくり委員会 会長 玉置 洋一〉 ・ 目標を推進していくために、一生懸命やっていくのでよろしくお願ひしたい。 ・ 遠山川は地域の財産であり、いろんなジャンルの皆様で知恵を出し合って財産を活かしていきたい。 ・ 下伊那南部建設事務所の皆様がこのような会議を開催し、ソフト事業まで一生懸命取組んでいただきありがたいと思う。	
決定事項 検討事項 保留事項 等	2 現地見学(研修)会の報告について〈高橋技師〉 ・ 平成 25 年 12 月 24 日に開催した現地見学(研修)について写真を用いて説明。(別紙 PP 資料) 3 中橋下流(遠山郷道の駅周辺部)の設計について〈(株)ゼンシン 原田 東鶴〉 ・ 中橋下流(遠山郷道の駅周辺部)の設計について説明。(別紙 PP 資料) 〈村松係長捕捉説明〉 〈質問・意見・要望〉 〈Q〉 中橋の橋脚の根入れはあるということか? 〈A 村松係長〉 中橋の橋脚について調査を行った結果、最深河床から 1.2m 根入れがある。最深河床は目に見えない深い位置にあるため、現状の見た目よりも根入れはある。 〈Q〉 スロープの幅員について、防災上の観点から消防車が入れるような幅員にはできな	

	いか?
〈A 原田氏〉	中橋直下からのアプローチだと、石碑等があり幅員が2m程度しかとれない。かぐらの湯の駐車場からのアプローチなら、下流に向けて設置することは可能。
〈Q〉	沈床工について、連結しないと言っていたが、堆砂する前に出水があれば飛ばされるのでは?
〈A 原田氏〉	大きい石を用いることと、石と石をかみ合わせてアーチ構造をつくるため安定すると考えている
〈Q〉	以前建設事務所で何箇所か設置していただいたものは堆砂する前に飛ばされてしまったが、連結なしで飛ばされないのか?
〈A 原田氏〉	以前に設置したものはただ石を置いただけの構造であったため、支える物がなくて、転倒して流されてしまったと思われる。今回は根石や力石で石をかみ合わせて、飛ばされにくい構造をつくるため安定すると考えている。
〈Q〉	遠山川は流速が早いため心配である。
〈A 原田氏〉	構造計算から安定する巨石の径を求めて設計している。
〈Q〉	どのくらいの径の石なら大丈夫なのか?
〈A 原田氏〉	力石については2m程度のものを考えている。
〈Q〉	2m程度の巨石なんてなかなかないのでは?
〈A 原田氏〉	全てにこの径の石を使うわけではないので大丈夫である。
〈Q〉	中橋下流に橋脚を守ろうとして並べた護床ブロックの残骸があるが、あれはどうするのか?撤去するのか、埋め込むのか?
〈A 原田氏〉	撤去することは考えていない。河床の中に埋まる予定である。
〈Q〉	中橋下流についてイメージ図のようにできれば良いと思う。スロープについて先ほども消防車が降りられるようにとの意見があったが、せめて軽トラくらいが降りられるようにして欲しい。 それと、現在のかぐらの湯の排水工は垂れ流しになっており、景観上、河川環境上好ましくないため、全体をきれいにするのであればそういった部分も配慮していただきたい。
〈A 原田氏〉	了解。
〈Q〉	帯工のアールの大きさはどのような計算でだしているのか? (流速に対してアーチ構造で持たせる計算とはどのようにしているのか?)
〈A 原田氏〉	基本的には石の自重でもたせており、アーチ構造でもたせるということは計算上考えていない。
〈A 村松係長〉	いただいた意見はまったくそのとおりであり、まず、管理をするのに降り口がないということは内部でも意見がでており、現在考えている。 それから、沈床工について、基本的には今までのように単に上に石を置くのでは

なく、最低限今の河床を下げずに、堆積するまでのあいだに河床が下がることがないようにいかにつくれるかということを考えている。今まで、石を置かしていただいて流されてしまっているが、それを踏まえて今回の設計を考えている。
それと、アーチ構造の形については計算上ででているのではなく、出水したときに流心をずらしたいという狙いがある。それがどの程度このアールで効果があるかは造ってみて皆様とモニタリングして考えていきたい。今までこういう経験があつて、これが最適であるというものがあるわけではなくて、我々が知恵を絞って考えたものである。将来的に「あの施設がいいね」となれば良いと考えている。
今いただいた意見を踏まえて年度末までに詳細な設計をつくる。
この設計に基づいて、26年度以降中心的部分の工事が進めていければと考えている。今回に限らず色々な意見があれば建設事務所までいただきたい。

4 推進会議での取組について

(1) 河川愛護活動支援事業活動団体への登録について説明。(別紙 PP 資料)

- ・委員及びオブザーバーより登録について承認を得る。

(2) 第 1 回目の河川愛護活動の実施について説明。(別紙 PP 資料)

- ・2月21日に河川愛護活動を行うことについて了解を得る。

〈Q〉 公民館の分館で草刈りを行っているが、河川愛護活動支援事業活動団体へ登録した方がよいのか?登録すると草刈りをしなければいけないのか?

〈A 村松係長〉 登録は随時可能であり、登録したからといって、義務的に作業をやらなければいけないということではなく、活動の報告をすると多少の補助が年度末にいただけるという制度であるため、登録は行った方がよいと思う。

(3) 平成 26 年度の活動計画について説明。(別紙 PP 資料)

5 今後の予定について

(1) 現地見学(研修)会の開催について説明。(別紙 PP 資料)

- ・推進会議の現場見学会を2月上旬～3月上旬に実施予定。

(2) 次回会議の予定について説明(別紙 PP 資料)

- ・次回会議の日程等は会長と相談して決めていく。

〈事務局長〉 河川課長に現場を見ていただき、来年度の工事につなげるためにピーアールを行った。遠山郷道の駅は大事なまちづくりの拠点であると思っている。川を愛していただけるといい川づくりを進めて行きたい。長いつきあいになると思うがよろしく願いたい。

6 その他

- ・ホームページへの公開について

会議の内容について、公開することについて了解を得た。